

氏 名 吉本 順子
授与した学位 博 士
専攻分野の名称 医 学
学位授与番号 博 甲第 6084 号
学位授与の日付 令和元年 12 月 27 日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻
(学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 Population-based longitudinal study showed that children born small for gestational age faced a higher risk of hospitalisation during early childhood
(Small gestational age 児の乳幼児期の入院リスクに及ぼす影響の検討「21世紀出生児縦断調査」より)

論文審査委員 教授 神田秀幸 教授 増山 寿 准教授 中村圭一郎

学位論文内容の要旨

Small for gestational age (SGA)児は、出生体重および身長が在胎期間別出生児体格基準値と比べて10パーセントイル未満と定義され、SGAでの出生は成人期の健康面にも長期間の影響を及ぼすことが指摘されているが、乳幼児期の健康面の影響についての検討は少ない。さらに早産児のみならず、正期産児のSGAについてもその影響が報告されてきている。我々は、SGAでの出生の乳幼児期の健康面に及ぼす影響を、早産児と正期産児にわけて、一般的な疾患による入院リスクを用いて検討した。

SGA児は、すべての原因の入院に関して、正期産と早産の両方で乳幼児期を通じて入院するリスクが高かった。また乳幼児期を通じてSGA児では下痢による入院リスクが有意に高かった。早産児との比較では、正期産のSGA児の乳幼児期における入院リスクが高いことが明らかになった。このことは、正期産児のSGA児数が、早産児の約10倍いることを考えると、公衆衛生の観点からはその影響の大きさが予測された。SGAでの出生は、早産児のみでなく正期産児においても、幼児期の健康に影響を及ぼしていた。原因として下痢による入院リスクが有意に高く、呼吸器感染症と同じように消化管疾患にも影響がある可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

出生体重および身長が在胎期間別出生児体格基準値と比べて10パーセントイル未満であるSmall for gestational age(SGA)児は、成人期の健康に影響を及ぼすことが指摘されている。しかしながら、SGAの乳幼児期の健康面の影響についての検討は少なく、早産児のみならず正期産児のSGAについてもその影響が懸念されている。

そこで、研究者らはSGAの乳幼児期の健康面に及ぼす影響を、全国調査である21世紀出生児縦断調査を用いて、早産児と正期産児に区分し、乳幼児期の一般的な疾患による入院に対する影響を明らかにすることを目的とし、研究を行った。SGA児は、対象とした入院疾患すべてにて、正期産と早産の両方で乳幼児期を通じて入院するリスクが高かった。また乳幼児期を通じてSGA児では下痢による入院リスクが有意に高かった。早産児との比較では、正期産のSGA児の乳幼児期における入院リスクが高いことを明らかにした。

委員からは、早産児と正期産児のSGAによる腸管形成の影響について質問がなされた。早産児の腸管形成は脆弱であるものの、本結果は正期産SGA児で出生後の成長のcatch upの影響が乳幼児期の入院に影響を与えている可能性について考察し、回答を行った。発表は的確で、周辺知識の学習も十分になされていた。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。